

# 救急集中治療医学

## 1 担当教員名

【研究指導教授】 教授 渡邊 栄三  
【科目担当者】

## 2 教育目標

### (1) ねらい

学生は、救命救急、災害、集中治療、病院前医療に関する幅広い臨床知識・技術を有し、救急集中治療の現場で臨機応変に対応できるような知識と技能を習得する。侵襲に対する生体反応を的確に観察しその反応を適切な方向に向かわせる能力を身に着ける。単なる対症療法にとどまらない細胞・分子レベルに踏み込んだ救命救急療法救急集中治療を研究する。臨床実習にとどまらず基礎的な分析、細胞培養、遺伝子解析等の技術も習得する。

### (2) 学修の到達目標

- ① 初療室、病院前医療で救命救急の初療が理解・実施できる。
- ② 救命救急、災害、集中治療、病院前医療が説明できる。
- ③ 侵襲に対する生体反応を説明できる。
- ④ 基礎的手法により新規救命救急療法の開発ができる。
- ⑤ 救命救急、災害、集中治療、病院前医療の現場で傷病者および医療スタッフに配慮できる。

## 3 授業内容

【講義】	救急診療でしばしば遭遇する、多発外傷、熱傷、敗血症等の侵襲下における生体反応を生理的反応、病的反応に分類し、各々の病態を細胞レベルで解説する。かかる病態を明らかにすることにより、対症療法ではなく、本質に迫った治療法、管理法を確立する基礎となりうる事を解説する。
【演習】	疑問点を明らかにするため関連論文の検索、抄読を繰り返す。その過程で研究テーマを絞りこむと共に研究方法を具体化する。
【実験研究】	重症患者の、搬送から初療、集中治療室管理、外科的内科的処置、および回復期管理まで一貫して行う事を習得する。その際、経験し、疑問に感じた点を研究テーマに選び、分子生物学的手法を用いて解明する測定手技、方法論、統計法、論文検索法、発表法などを習得する。

## 4 成績評価の方法・基準

講義、演習、研究実習への参加状況および研究内容に基づいて総合的に評価する。

## 5 教科書・参考図書

標準救急医学 監修:日本救急医学会 出版社:医学書院 出版年:2014年

外傷初期診療ガイドライン 監修:日本外傷学会, 日本救急医学会 出版社:へるす出版 出版年:2021年

Textbook of Critical Care, Edt., Jean-Louis Vincent et al, 2016

Critical Care Medicine, Principles of Diagnosis and Management in Adults. Fifth Edition. Edt., Joseph E. Parrillo, R. Phillip Dellinger, et al.2019

## 6 準備学習(予習, 復習等)及び必要な時間

侵襲学, 外傷基本手技, 輸液法, 代謝管理の基本的事項は学習済みである事。1週間に 7 時間程度の予習・復習が望ましい。

## 7 課程修了・学位授与方針と当該授業科目の関連

救命救急, 集中治療に関する論文作成を通して, 侵襲学分野での高度な専門知識と論理的思考を伴う研究実践力, 特に専門領域での様々な課題に対応できる実践力を修得できる。

## 8 課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法

レポートは, 評価後返却されるが, 内容に不足・誤りがある場合は再提出を求めることがある。

## 9 履修上の留意点

特になし

## 10 オフィスアワー

職名	氏名	曜日	時間帯	場所	連絡先
教授	渡邊栄三	月・ 水・金	15:00-17:00	救急・災害管理棟 3階部長室	内線 77670 (医局秘書)